



創立149年

# 石積っ子

教育目標 **さいごまでやりぬく子 からだをきたえる子 もとめて学び子 ともを大切に**する子

坂本小だより 令和5年 11月号

児童数589名 (24クラス)

坂本小HP <http://www.otsu.ed.jp/skmt/>

【校長 上畠 憲一】

## 「さかもと大好き」の一場面

### 創立150周年企画 第2弾 ～夜の坂本小 恐怖の肝試し～

連日連夜、万端万全の準備を進めてくださった『肝試し』が、子ども達の響きわたる悲鳴とゴール後の安堵の笑顔を残して無事に終了しました。150周年を機に「親としてPTAとして、坂本小の子ども達の思い出に残ることができないだろうか」との思いが構想を膨らませ、当初の予想をはるかに上回る438人の子ども達の参加がありました。ご家族を含めると600人を超える大規模なイベント



【7日まで第2理科室で展示中】

となりましたが、PTA 役員さんを中心とする保護者 20 名あまりのスタッフの皆さんの完璧な準備と入念なリーサルで大きなトラブルもなく、予定通りの進行で順調に終わりました。ありがとうございました。

子ども達にとって、非日常を体験できたよい思い出となったことはもちろん、当日を迎えるまでの綿密な計画と精巧な仕掛けの数々を準備してくださったスタッフの方々の達成感、充実感は半端なかつたのではないのでしょうか。

「当日を迎えても続いていた不安と心配が、次々とゴールしてくる子ども達の笑顔を見て吹っ飛びました。うれしさがこみ上げてきました。やってよかったと心から思いました。」とおっしゃった言葉を聞いて、胸が熱くなり、感謝の気持ちが感激へと高まりました。我が子、我が家のことだけでなく（むしろ犠牲にされていたのではと心配しています）、坂本小学校の子ども達みんなの笑顔のために多大なるご尽力だけたこと、子ども達だけでなく、職員も一緒になって楽しませていただけたこと、そんな思いをもつ保護者の方々に見守られている坂本小学校は本当に幸せだと思いました。残念ながら予定が合わなかったり体調を崩したりで参加できなかった子ども達や保護者の方々も含めて、間違いなく皆にとって「さかもと大好き」の一場面になったはずです。



### 学学調査(学習状況)の状況

**国語科**では、全校あげて共通実践している坂本タイムを活用しての漢字学習や授業づくりで大切にしている「文章で書いて表現する活動」の成果が表れ、近年の課題であった記述式問題の正答率が3問中2問で全国平均を上回った。その2問については、どちらも複数の資料（グラフ・図を含む）からわかったことを、条件にそってまとめるというものである。また、無回答率（問題の答えを何も記入しない状態で提出する割合）が、全国、県、市の平均を大きく下回っていることから、記述式の問題に対する苦手意識がなくなってきていると考えられる。今後も引き続き共通実践の積み上げを図るとともに、家庭とも協力しながら家庭学習の充実と読書活動のさらなる充実をすすめていく。

**算数科**では、少人数学習やぐんぐん教室等の成果が表れて基礎的な問題を解く力が育ってきており、計算問題や図形の性質を問う問題に高い正答率が見られた。また、普段の学習の中で、答えにたどり着くまでの自分の思考の流れを文章や図等で表す活動や、考えを交流する活動を大切にしており、式と答えだけでなく、求め方（考え方）を記述する問題や、回答した理由を記述する問題に全国平均より高い正答率が見られた。一方、台形の性質や筆算途中の商の意味を考える問題など、課題も散見した。今後は、基礎的な力をつける問題はもちろん、発展的に思考する様々な問題形式に触れることも取り入れた学習活動を目指す。

**質問紙調査**の結果からは、子どもたち同士が意見を交わし、問題を解決する協働的な課題解決能力の育成にも力を入れ、学びの基礎となる話し合う力の向上を大切にしていることが実を結び、どんな意見でも受け入れてもらえるという安心できる学級づくりができつつあるということがうかがえる。また、自分にはよいところがあり、将来の夢や目標を持っている児童が多いことから、前向きに生活を送っており、自尊感情や自己肯定感が育っていることも特徴的である。この子ども達の力を生かして、より主体的な学びを取り入れた「坂小スタンダード」に改良していかねばならない。

一方、1日あたりの勉強時間が短く、計画的に家庭学習している児童の割合が少ない。今後、学校と家庭が連携をしながら、宿題の量や内容などの見直しを行い、家庭の協力も得ながら子ども達自らが意欲的に学習を進めることができるような手立てが必要。



## 秋本番の10月でした



**〈スポーツの秋；運動会〉** 先日、朝の放送で5年生の代表児童が「運動会を終えて」というテーマで作文を発表してくれました。どの子も文章の質や量ともに申し分のないよくてきた作文でした。何よりも子ども達の成長、運動会でつけた力の大きさに喜びを得ました。

学校行事はそれを実施すること自体が目的ではなく、そこへ向かうことを通して子ども達がどんな力をつけるかが大切です。行事があると日常の学習以上に皆が一生懸命準備します。当日まで大変忙しい日々を送ります。そうして迎え、実現した行事であるからこそ、先生達にとっても子ども達にとっても充実感や満足感、達成感も大きくなります。

その表れの一つが発表してくれたふりかえり作文でした。演技や競技、たてわり種目や応援合戦、委員会の役割を経験して、また観戦して思ったこと感じたことを、見事なまでに今後の自分の生き方につなげるように書かれていました。感謝の気持ち、協力することや友だちを思うことの大切さを学んだこと、あきらめないでやることの意味や努力することで得られたこと、リスペクトする気持ちとあこがれを抱いたこと等、運動会で学んだことつけた力全てをこれからの生活に生かしていきたいという前向きな思いを発表してくれました。しかも笑顔で。全校放送という緊張の中にも確かな自信がにじみ出ていました。間違いなくこの子達にとっての大きな成長だと感激しました。



**〈芸術の秋；日吉大社写生会〉** 毎年恒例になっている写生大会。今年も2年、4年、6年の子ども達が日吉大社へ出向き、少しだけ色づいた木々に囲まれた景色の中、思い思いの日吉大社を描きました。閉ざされた教室の狭い机上ではなく、広々とした空間で貴重な仏閣を目の前にして描くのですから、ゆったりとした気持ちになり、自然と筆運びもゆっくり丁寧になります。一筆一筆細かなところまで見て書く子ども達の姿を見ているだけで作品のできあがりを楽しみでなりません。



**〈心温まる秋；ほっとストーリー〉** 企画 JRC 委員会の子も達の考えで始まった「ほっとストーリー」コーナー。少しでも坂小のみんなが穏やかで心温まる日々を過ごせなかと一生懸命アイデアを出し合い、準備を進めてきました。そして、先日ようやく校内の一角に何とかかわいらしいコーナーができあがりしました。

温かい気持ちになった出来事やうれしかった一言など、聞いて気持ちがほっとする内容を紙に書いてポストに入れるというもので、毎月校内放送で紹介して全校で共有します。

先日中味を確認して、いろんなエピソードを読んで心温まりましたが、ポストの中味を確認する子ども達の笑顔が一番素敵でした。

道のりは遠いかも知れませんが、全校のみんなが誰ひとり残らず穏やかな温かい気持ちで過ごしてくれるようになっていくことを心から願います。